

内閣府主催

マッチングピッチ 2025 開催レポート



内閣府



行政機関 × スタートアップ

MATCHING

PITCH 2025

2025
11.25

内閣府主催 マッチングピッチ 2025

Tuesday 10:00 – 17:00

Tokyo Innovation Base

東京都千代田区丸の内3-8-3

開催概要

政府では「スタートアップ育成5か年計画」（令和4年11月28日新しい資本主義実現会議決定）等に基づき、スタートアップ育成に向けた公共調達の活用促進に取り組んでいます。

本取組の一環として、内閣府では、行政機関（国・地方公共団体）におけるスタートアップの有する新技術・新サービスに関する知見を高めるとともに、行政機関とスタートアップとのネットワークを構築する機会を創出するためのプレゼンテーション・マッチングイベント「マッチングピッチ」を、今年度で3回目の開催として実施しました。

本イベントでは、社会・行政課題の効率的な解決に資する新技術・新サービスを有し、行政機関と接点を持ちたいスタートアップ33社によるピッチに加え、スタートアップとの協業に意欲的な行政機関10機関によるリバースピッチを行いました。あわせて、登壇したスタートアップおよび行政機関による展示ブースの設置や、国・自治体・スタートアップの登壇者によるトークセッションも実施しました。

当日は、会場およびオンラインを合わせて350名を超える皆様にご参加いただきました。

開催日時

2025年11月25日(火)10:00～17:00（受付開始9:30）

開催場所

Tokyo Innovation Base (TIB) 1F 東京都千代田区丸の内3-8-3
及びオンライン配信（オンライン配信プラットフォーム「Deliveru」にて配信）

参加者数

358名（内訳：会場参加者189名／オンライン参加169名）

主催

内閣府

運営

株式会社矢野経済研究所

プログラム

- ・ オープニング
主催者代表挨拶 内閣府特命担当大臣(科学技術政策) 小野田 紀美
- ・ スタートアップによるピッチ(33社)及び行政機関によるリバースピーチ(10機関)

[登壇分野]

- ① AI の利活用
- ② 防災・減災
- ③ 環境・エネルギー
- ④ 公共インフラ
- ⑤ 農林水産
- ⑥ 出産・子育て・教育
- ⑦ 地域コミュニティ機能の維持・強化、防犯、地域活性化
- ⑧ 地域交通・物流
- ⑨ 観光
- ⑩ 医療・介護福祉・健康

- ・ トークセッション①
「行政機関による生成 AI の利活用～官公庁 × 生成 AI が示す未来～」
- ・ トークセッション②
「スタートアップと行政機関における官民連携の最前線
～都市規模に左右されない官民連携のヒント～」
- ・ 分野別セッション①(分野:環境・エネルギー)
「スタートアップによるリチウムイオン電池のサーキュラーエコノミー実現への挑戦
～スタートアップ発の技術に対する地域の期待と社会実装に向けた課題～」
- ・ 分野別セッション②(分野:農林水産)
「AI ロボットが拓くスマート農業の最前線
～自治体とスタートアップの共創による現場実装～」
- ・ 分野別セッション③(分野:地域交通・物流)
「公共交通空白地域の解決に挑む
桐生市×スタートアップによる連携から見た今後の可能性」
- ・ 分野別セッション④(分野:地域コミュニティ機能の維持・強化、防犯、地域活性化)
「スタートアップと自治体の連携によるスマートシティ推進
～行動認識 AI が変えるまちづくり～」



プログラム概要

オープニング・メインステージの様子

メインステージでは、革新的なソリューションを持つスタートアップによるピッチ、行政機関が抱える具体的な課題を発信するリバースピッチに加え、登壇したスタートアップ及び行政機関の展示ブースを設置しました。あわせて、「行政機関による生成AIの利活用」や「スタートアップと行政機関における官民連携の最前線」の注目度の高い2テーマについてトークセッションを実施しました。さらに、全ピッチ終了後にはネットワーキングの時間を設け、行政機関とスタートアップの交流を促進しました。

また、サブステージでは会場参加者限定プログラムとして、「環境・エネルギー」「農林水産」「地域交通・物流」「地域コミュニティ機能の維持・強化、防犯、地域活性化」の4つの個別テーマに特化した分野別セッションを実施し、各セッション終了後にネットワーキングの時間を設けました。



タイムテーブル

MATCHING
PITCH 2025

	メインステージ	サブステージ
10:00	<p>10:15~10:25 オープニング</p> <p>10:25~10:55 トークセッション① 行政機関による生成AIの利活用</p>	
11:00	<p>11:00~12:00 行政機関・スタートアップによるピッチ登壇 テーマ①: AIの利活用 テーマ②: 防災・減災</p>	<p>11:30~12:20 分野別セッション① 環境・エネルギー セッション:11:30~12:00/ネットワーキング:12:00~12:20</p>
12:00		
13:00	<p>13:00~13:55 行政機関・スタートアップによるピッチ登壇 テーマ③: 環境・エネルギー テーマ④: 公共インフラ</p>	<p>13:00~13:50 分野別セッション② 農林水産 セッション:13:00~13:30/ネットワーキング:13:30~13:50</p>
14:00	<p>14:00~14:30 トークセッション② スタートアップと行政機関における官民連携の最前線</p>	<p>14:35~15:25 分野別セッション③ 地域交通・物流 セッション:14:35~15:05/ネットワーキング:15:05~15:25</p>
15:00	<p>14:35~16:20 行政機関・スタートアップによるピッチ登壇 テーマ⑤: 農林水産 テーマ⑥: 出産・子育て・教育 テーマ⑦: 地域コミュニティ機能の維持・強化、 防犯、地域活性化</p>	
16:00	<p>テーマ⑧: 地域交通・物流 テーマ⑨: 観光 テーマ⑩: 医療・介護福祉・健康</p>	<p>15:40~16:30 分野別セッション④ 地域コミュニティ機能の維持・強化、防犯、地域活性化 セッション:15:40~16:10/ネットワーキング:16:10~16:30</p>
	<p>16:30~17:00 ネットワーキング&クロージング</p>	
17:00		

トークセッション

メインステージで行われたトークセッションでは、行政機関からのニーズが特に高い内容や、参加者の皆様に広く知っていただきたいテーマを取り上げて実施し、オンライン配信も行いました。

トークセッション①

「行政機関による生成 AI の利活用～官公庁 × 生成 AI が示す未来～」

行政における生成 AI の利活用に携わる「政府」、AI 実装の現場である「自治体」、技術提供や AI 利活用の普及の役割を持つ「スタートアップ」の 3 者から、実際の事例などをご共有いただき、行政機関とスタートアップにおける生成 AI の可能性とその未来像を議論していただきました。

パネラー

谷口 野乃花 氏

Polimill 株式会社
代表取締役 COO



現役の慶應大学経済学部 2 年生。中学時代から起業家精神を發揮し、幼児教育事業やオンライン音楽教室を展開。高校卒業後、ITベンチャーでの経験を経て、地方創生への思いから Polimill 株式会社に入社。同社では Qommons AI 事業の創成期から成長を牽引し、全国規模での社会実装を推進。全国 70 自治体の首長へ直接提案を行い、導入済みの自治体では 100 以上の自治体での職員研修を実施。戦略立案から現場実行、人材育成まで幅広く担い、行政現場における生成 AI の活用を加速している。

パネラー

山口 真吾 氏

デジタル庁 戦略・組織 G
参事官 (AI 実装戦略総括)



【専門分野】

情報通信政策、電波政策、防災情報システム、地上デジタルテレビ放送システム、人工知能 (AI)
1995年4月 郵政省 (現総務省) 入省
2014年4-9月 早稲田大学政治経済学術院 非常勤講師 (兼務)
2015年8月 総務省情報通信国際戦略局 技術政策課 企画官
2017年4月 慶應義塾大学環境情報学部 准教授 (有期)
2021年7月～ 総務省国際戦略局 宇宙通信政策課長
2022年6月～ 総務省総合通信基盤局 電気通信技術システム課長
2023年7月～ 内閣府宇宙開発戦略推進事務局 参事官
2025年7月～ 現職
1995年 早稲田大学 理工学部電子通信学
1998年 英国 City University 情報通信政策専攻修士課程修了

パネラー

寒川 孝之 氏

横須賀市 経営企画部
デジタル・ガバメント推進
担当部長



窓口・福祉部門を経て 2001 年に情報政策課 (情報システム部門) へ配属。IC カードによるまちづくり実証実験「IT 装備都市研究事業」を担当。2005 年には、横須賀市コールセンターを開設。その後、企画部門に異動し、横須賀市新港地区交流拠点への国等の合同庁舎移転にかかる大規模土地利用によるまちづくり事業に従事。2014 年から複数回実施された臨時福祉給付金支給業務を統括、2017 年からオリンピック担当業務としてイスラエル柔道チームの事前キャンプを誘致、イスラエルのホストタウン申請を担当。2020 年 4 月、横須賀市経営企画部デジタル・ガバメント推進室長に就任。2024 年 4 月から現職。BPM メソッドを主軸としたデジタル業務改革を進めている。

モデレーター

山田 幸美 氏

フリーアナウンサー



明治学院大学を卒業後、テレビユー福島、広島ホームテレビでの局アナを経て 2014 年からフリーアナウンサーに。現在、BS テレ東の朝の経済番組「日経モーニングプラス FT」でメインキャスターを務めている他、日経 CNBC「攻めの IR Market Breakthrough」、フジテレビ ONE「プロ野球ニュース」など、経済からスポーツまで幅広く番組に携わっている。更に、今年 1 月からは国立大学法人 電気通信大学の産学官連携センターで産学連携コーディネーターとして大学発スタートアップの創出のために奮闘している。

トークセッション②

「スタートアップと行政機関における官民連携の最前線
～都市規模に左右されない官民連携のヒント～」

人口規模の異なる自治体ごとのスタートアップとの連携の先行事例を手がかりに、スタートアップの技術力や革新性と、地域との連携をどのように進めるのかについて、議論していただきました。

パネラー

鈴木 裕也 氏

経済産業省 イノベーション・
環境局 イノベーション創出
新事業推進課 課長補佐



2009年経済産業省入省。

入省後、大企業とスタートアップの共創環境整備、各地の経産局のあり方の検討、サプライチェーン補助金の創設、中小企業庁にて中小企業信用補完制度等を担当。その後、内閣官房デジタル行財政改革会議事務局に出身し、デジタル行財政改革会議の運営、スタートアップの有するノウハウ・技術と行政とが円滑に交わり、行財政効果の高い取組に向けた政策の企画・立案を担当。

現在、経産省に帰任し、イノベーション創出新事業推進課でディープテック・スタートアップやインパクトスタートアップの支援を担当。

パネラー

直井 亮介 氏

東京都 スタートアップ戦略推進本部
スタートアップ戦略推進担当課長



1998年東京都入庁。教育行政を経て産業労働局に異動、以後約20年に渡り商工部・金融部に在籍し中小企業支援に携わる。社会課題解決ベンチャーの支援や、融資・ファンドによる資金調達支援などに従事し、2023年から現職のスタートアップ戦略推進担当課長に就任。都庁各部署と連携しスタートアップ製品の公共調達を促進する「現場対話型スタートアップ協働プロジェクト」の立ち上げや、スタートアップ支援における全国自治体との連携推進等を担当。中小企業診断士。

パネラー

和田 裕 氏

磐田市 経済産業部
産業政策課 副主任

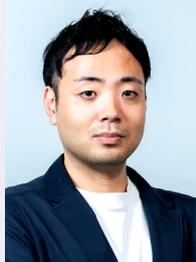


1989年、神奈川県厚木市生まれ。青山学院大学工学部で機械工学全般を学ぶ。2012年、静岡県浜松市の物流会社で、物量倉庫のシステムインフラ構築と品質管理を担当。2016年、静岡県磐田市に入庁。地域振興部門で3年、上下水道部門で4年在籍。2023年、現所属の産業政策課に配属。1年目はふるさと納税担当の傍ら、市内企業と市外企業のマッチングに少々従事。2年目から本格的に首都圏企業等とのマッチングを担当し、首都圏の企業やイベントに参加し、市内企業の成長を支援。今年度は、市内企業とスタートアップ企業をマッチング、協業支援を行う新事業を企画・担当。日々、市内外との企業との出会い・対話を大切に、業務に奔走している。

パネラー

岡本 英樹 氏

磐田市産業イノベーションマネージャー
ReGACY Innovation Group 株式会社
Senior Manager)



1988年、東京都八王子市生まれ。2012年、経済産業省入省。政府の成長戦略の策定、電力・ガス自由化に関する法改正等に従事。2021年、経済産業政策局新規事業創造推進室(当時のスタートアップ政策担当課室)に就任。JStartup、起業家海外派遣、シリコンバレー拠点設立、インパクトスタートアップ支援等の個別施策の企画立案・執行に加え、自治体とスタートアップの連携促進を含めたスタートアップエコシステムの構築に取り組む。2024年、静岡県浜松市に家族で移住。現職のReGACY社へ転身。地域におけるエコシステムの構築を目指し、自治体のスタートアップによる地域産業振興政策等の支援を担当。2025年、磐田市産業イノベーションマネージャーに就任。

モデレーター

石塚 理博 氏

一般社団法人
インパクトスタートアップ協会



1987年に栃木県で生まれ、現在も在住。東京学芸大学卒業後、2010年に地方自治体に入庁し、地方創生施策や広域連携事業、ヘルスケアや都市政策の企画・立案に多数携わった後、2021年に大手コンサルティングファームに入社。現職では、政府・官公庁のスタートアップ政策を中心に、エコシステムの深化や社会課題の解決、ファンドのDDやアトツギ支援、公共調達/官民連携の推進など、多岐に渡るプロジェクトの企画・立案と実行を責任者として務めている。また、現業の傍ら、一般社団法人インパクトスタートアップ協会への参画や北九州市の地域活性化起業人に就任するなど、スタートアップ業界や公民連携の推進に注力。

分野別セッション

行政機関にとって関心度の高い社会課題・行政課題について個別テーマごとに踏み込み、各課題を抱える行政機関にとって有益性の高い分野別のセッションを会場限定で実施しました。

分野別セッション①（分野：環境・エネルギー）

「スタートアップによるリチウムイオン電池のサーキュラーエコノミー実現への挑戦 ～スタートアップ発の技術に対する地域の期待と社会実装に向けた課題～」

近年、リチウムイオン電池および関連製品に起因する廃棄物処理施設や収集運搬車両での火災事故が頻発する中、その課題解決に取り組むスタートアップと、同社を支援・連携する自治体、さらに課題解決に取り組む国のご担当者が集まり、スタートアップの技術を活用した解決策の可能性や、行政機関との連携によって生まれる新たな取り組みの展望について議論していただきました。

パネラー

向山 大吉 氏

株式会社電知
代表取締役 CEO



1976年埼玉県所沢市生まれ、静岡県浜松市育ち。東京農工大学大学院にて博士(工学)取得後、早稲田大学の教員として14年間にわたりリチウムイオン電池の非破壊内部状態解析の研究に従事。2020年7月、弟とともに株式会社電知を設立し、2021年4月に代表取締役CEOに就任後、電気化学インピーダンス法(EIS)を応用した非破壊診断技術を社会実装。2025年にはNEDO懸賞型プログラムにて「廃棄小型リチウムイオン電池用放電診断機」の提案で1位を獲得。現在は、EV車載電池や家電用リチウムイオン電池の状態可視化と回収・リユースの仕組み構築を通じ、サーキュラーエコノミーの実現に取り組んでいる。

パネラー

福井 和樹 氏

環境省 環境再生・資源循環局
廃棄物適正処理推進企画官



昭和56年生まれ、大阪府出身。京都大学工学研究科修士。平成19年環境省入省、その後、地球温暖化対策、福島第一原発事故の除染事業、パリ協定に向けた国際交渉、海洋プラスチックごみ対策、脱炭素技術開発、人事・業務改革等を担当。令和7年7月から現職。

パネラー

佐藤 雅康 氏

埼玉県 産業労働部 産業支援課
渋沢MIX担当 主幹



大学卒業後、大手光学機器メーカーに就職。在籍した9年間でR&Dセンターや医療機器事業部での製品開発等に従事後、埼玉県庁に入庁。直近2部門では全庁的にSDGsを推進する担当や、サーキュラーエコノミーを推進する担当にて新規セクションの立ち上げを経験。また、前所属において、テック系スタートアップのアクセラレーションプログラムを企画立案し実行。令和7年4月から現所属である渋沢MIX担当として、埼玉県におけるイノベーション創出に従事。

モデレーター

田中 善章 氏

株式会社矢野経済研究所
インダストリアルテクノロジーユニット
上席マネージャー



矢野経済研究所において2010年以降、リチウムイオン電池、同電池材料に関する調査プロジェクトをメインに関連市場を対象とする調査を担当。近年は「車載用リチウムイオン電池市場」、「リチウムイオン電池主要四部材」のレポートを毎年発行しており、その他「リチウムイオン電池のリユース、リサイクル」、「全固体電池」、「リチウムイオン電池劣化診断機器」等の関連調査を手掛けた実績を有する。

分野別セッション②（分野：農林水産）

「AI ロボットが拓くスマート農業の最前線
 ～自治体とスタートアップの共創による現場実装～」

多くの自治体が課題として抱える農業分野の担い手不足や生産性向上の問題について、スタートアップと自治体による先進事例をご紹介いただきつつ、国によるスマート農業推進の視点も交え、地域農業の持続的な発展に向けた官民共創の可能性について議論していただきました。

パネラー

秦 裕貴 氏

AGRIST 株式会社 代表取締役



1993年、福岡県福津市生まれ。モノづくりに興味を持ち北九州工業高等専門学校に進学。機械工学やロボット開発の基礎を学ぶ。卒業後、新規就農も考えたが、学内に設立されたベンチャー合同会社ネクストテクノロジーに入社。特殊用途3Dプリンタの開発や家庭用見守りロボットの開発を担当した。その後、2019年にAGRISTのCTOに就任し、第10回ロボット大賞「農林水産大臣賞」を受賞やCES2023 Innovation Awards受賞等、国内外で100年先も持続可能な農業の実現に向けて取り組む。

パネラー

阿部 哲理 氏

農林水産省
 農林水産技術会議事務局
 研究推進課 課長補佐（企画調整班担当）



昨年10月に施行された「農業の生産性の向上のためのスマート農業技術の活用の促進に関する法律（スマート農業技術活用促進法）」における「スマート農業技術等の開発及びその成果の普及に関する計画（開発供給実施計画）」の認定業務を主に担当。野菜や果樹の収穫ロボット等の開発難度が高い技術である一方、生産現場からニーズが高いスマート農業技術等の開発・供給を目指す。

パネラー

水田 隆史 氏

宮崎県 農政水産部
 農業普及技術課 課長補佐



宮崎県美郷町出身（51歳）
 平成8年 宮崎大学農学部卒、宮崎県庁入庁
 平成16年 九州大学博士（農学）
 宮崎県香港事務所長（初代）、農政企画課農政計画担当主幹等を経験

モデレーター

三橋 こずえ

内閣府
 科学技術・イノベーション推進事務局
 イノベーション推進担当



平成21（2009）年、横浜市に入庁。健康保険、市税、スポーツ振興、報道担当など幅広い業務を経験。令和6年度よりイノベーション推進課に所属し、海外スタートアップとの連携・誘致を担当。令和7年度からは内閣府に出向し、スタートアップ・エコシステム拠点都市のネットワーク「Startup City Project Network」を担当。各拠点都市間の連携強化や共通課題の解決に向けたワークショップの企画・運営などに取り組んでいる。

分野別セッション③（分野：地域交通・物流）

「公共交通空白地域の解決に挑む
桐生市×スタートアップによる連携から見た今後の可能性」

多くの地域では、少子高齢化などによる運転者不足や利用者不足を背景に、地域鉄道やバス路線の減便・廃止が進み、全国各地で「交通空白」が生じています。こうした課題に対し、官民連携で取り組むスタートアップと自治体、そして国内の「交通空白」解消に取り組む国の立場から、課題解決に向けた実践的な取り組みや、今後の展望について議論していただきました。

パネラー

今氏 一路 氏

株式会社シカク
代表取締役



地域の移動課題を解決するデマンド・ライドシェア型交通サービス「MITT」を展開するCICAC(シカク)代表。
渋谷での起業を経て、群馬県桐生市へ拠点を移し、「いまも未来も交通空白ゼロ」をキーワードに全国各地で地域密着型モビリティの社会実装を進めている。

パネラー

西山 直人 氏

国土交通省 総合政策局
地域交通課 課長補佐（総括）



2013年国土交通省入省。
国土政策局、大田官房会計課、観光庁、住宅局、内閣府（防災担当）、米国コロンビア大学への留学、都市局での勤務ののち、「交通空白」の解消や多様な主体による連携・協働を通じた「地域の足」「観光の足」の確保に関する予算・法令等の制度に関する総括を担当。

パネラー

古川 治男 氏

群馬県桐生市 共創企画部
交通ビジョン推進室 室長



群馬県桐生市出身（53歳）
・平成3年、桐生市役所入庁
・市税、生涯学習、教育施設管理、商業・金融業務などを担当
・平成29年、広域連携推進室担当係長
・令和4年、交通ビジョン推進室長補佐
・令和7年、交通ビジョン推進室長

モデレーター

和仁 裕之

内閣府
科学技術・イノベーション推進事務局
イノベーション推進担当 主査



2016年文部科学省入省。スタートアップ・エコシステム拠点都市やスタートアップによる公共調達促進の施策を担当し、第2期拠点都市の立ち上げに関与。情報化推進、原子力損害賠償、放射線利用の国際協力を経て、大学発スタートアップ支援やEDGE-PRIME Initiativeによる高校生等へのアントレ教育、大学発新産業創出基金事業に携わる。NPO法人ETIC.出向時には企業間共創のコンソーシアム運営を担当。不確実性の高い政策課題にも果敢に挑む。

分野別セッション④（分野：地域コミュニティ機能の維持・強化、防犯、地域活性化）

「スタートアップと自治体の連携によるスマートシティ推進 ～行動認識 AI が変えるまちづくり～」

「まちづくり」で連携するスタートアップと自治体から、安全・安心の向上に向けた取り組み事例を紹介いただくとともに、「人流データを活用した新たなまちづくり」の可能性について議論していただきました。

パネラー

尾上 剛 氏

株式会社アジラ
代表取締役 CEO 兼 COO



大手証券会社で投資銀行部門を含む様々な業務に従事後、上場企業やスタートアップにて経営企画部門を統括。
2022年8月に株式会社アジラへ参画し、経営企画GMIに就任、2023年1月より執行役員COO、2023年3月に取締役COOに就任。
2024年4月に代表取締役CEOに就任。早稲田大学大学院ファイナンス研究科修了。

パネラー

村上 和久 氏

町田市 経済観光部
次長兼産業政策課長



平成5(1993)年、町田市に入庁。公的住宅、都市計画、都市公園など計画、整備・改修、管理など幅広い業務を経験。平成28年度には「町田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に従事。市制60周年にあたる平成29年から令和3年度には、市民と関係団体をつなぐ夢実現プロジェクト「まちだ〇ごと大作戦18-20+1」を担当。令和4年から現所属である産業振興に従事。

モデレーター

矢野 初美 氏

株式会社矢野経済研究所
コンシューマー・マーケティングユニット



2008年、株式会社矢野経済研究所入社。高機能素材、HR関連サービス、フェムケア&フェムテック等ジェンダー関連、探究学習支援サービス等、幅広いテーマを対象にした市場調査を行う。2020年より「IFLATS」(暮らし方、働き方、学び方に関するリサーチし、ソリューションを提案・運営するイノベーションラボ)でフェローとして活動し、地域での「価値創造型人材育成プログラム」に参画、そのほか住民調査や転出者調査等、調査プロジェクトも担当している。



ピッチ (スタートアップ)

全 10 テーマの登壇分野について、行政機関との連携に意欲的なスタートアップ 33 社にご登壇いただきました

登壇スタートアップ一覧

① AI の利活用

- ・ 株式会社グラファー
- ・ Polimill 株式会社
- ・ 株式会社フツパー
- ・ 株式会社ピースポーク
- ・ 株式会社 RevComm

② 防災・減災

- ・ エアロセンス株式会社
- ・ 株式会社バカン
- ・ AUTHENTIC JAPAN 株式会社

③ 環境・エネルギー

- ・ 株式会社ノベルジェン
- ・ 株式会社ピリカ
- ・ 株式会社 JOYCLE

④ 公共インフラ

- ・ 株式会社クアンド
- ・ 株式会社フォレストシー
- ・ 炎重工株式会社
- ・ DataLabs 株式会社
- ・ 株式会社 SHIN-JIGEN
- ・ 株式会社 KK Generation
- ・ ONESTRUCTION 株式会社

⑤ 農林水産

- ・ 株式会社セツロテック
- ・ 株式会社リブル

⑥ 出産・子育て・教育

- ・ エール株式会社
- ・ 株式会社 ZIAI
- ・ 株式会社コドモン

⑦ 地域コミュニティ機能の維持・強化、防犯、地域活性化

- ・ 株式会社アジラ
- ・ KEYes 株式会社
- ・ iPresence 株式会社

⑧ 地域交通・物流

- ・ イツモスマイルデジタルソリューションズ株式会社

⑨ 観光

- ・ 株式会社ホーン

⑩ 医療・介護福祉・健康

- ・ 株式会社トータルブレインケア
- ・ 株式会社 Ashirase
- ・ 株式会社ココロミル
- ・ 株式会社ヘルスケアシステムズ
- ・ エーアイシルク株式会社



スタートアップとの協業に意欲的な 10 機関の行政機関にご登壇いただき、各行政機関の原課が抱える具体的な社会・行政課題について発信いただきました。

登壇自治体一覧

行政機関	登壇テーマ
総務省 消防庁	「林野火災における消火薬剤を活用した空中消火技術等について」
つくば市	「給食献立作成の自動化」
栃木県	「地域交通政策へのデータの活用」
宇都宮市	「消防用資器材を活用したアップサイクルについて」
新宿区	「町会・自治会活動をはじめとした地域情報等の効果的な発信」
豊橋市	「生産性向上、担い手不足など豊橋の生産者が抱える課題」
小牧市	「デジタル技術を活用した新たな交通・防犯対策」
雲南市	「防災・減災のまちづくり 地域主体のまちづくりを通じて、災害時に迅速かつ確かな情報伝達、被害情報把握」
北九州市	「① シニア世代と介護予防教室等のマッチング ② 障害のある方の工賃向上に向けた受注機会の創出（プラットフォームの構築等）」
宮崎市	「『フレイル予防（運動・栄養・社会参加）の継続促進支援』および『フレイルに関する理解促進を目指す教育・情報発信の強化』」

ブース

登壇したスタートアップ及び行政機関の展示ブースを設置いただきました。

